吉田南中だより

令和５年８月２１日
鹿児島市立吉田南中学校

吉田南中学校ＨＰ

９月の主な行事

９月					
日	曜	行　事　内　容	日	曜	行　事　内　容
1	金	始業式　大掃除	14	木	生徒会立会演説会
4	月	3年生共通実力テスト	15	金	5時間授業
5	火	学年朝会	18	月	敬老の日
6	水	体育大会学年練習・全体練習	19	火	1年集金日
7	木	体育大会予行	20	水	2年集金日
9	土	土曜授業　体育大会準備	21	木	3年集金日
10	日	第77回体育大会	22	金	学級専門部会
11	月	振替休日	26	火	生徒朝会（生徒会任命式）
13	水	全校朝会	28	木	生徒会専門委員会（旧役員最後）

子どもたちのために　よりよい教育を　＜保護者アンケートの結果＞

評価基準　＝　４：そのとおり　　３：だいたいそのとおり　　２：やや努力不足　　１：全くそうでない

一学期末に御協力いただきましたアンケート調査の結果をお示しいたします。回答の内容を分析し，二学期からも学校と家庭とが連携して同じ目標の下で生徒の育成に努めて参りたいと思います。

項目	役割	番号	質　問　内　容	平均評価
志や誇り	家庭は	1	今や未来をよりよく生きるために，大切なことや態度を意識して行動させようとしていますか。	２．９
		2	体験活動や身の身の回りの方々とのかかわりを通して，将来や今を主体的に考え行動することの大切さに気付かせようとしていますか。	２．８
		3	地域活動や家庭の手伝いなどに積極的に取り組ませるようにしていますか。	２．５
		4	世の中や社会の話題を共有したりしながら，国際社会・地域社会との「つながり」について意識させようとしていますか。	２．５
心豊かに	家庭は	5	自分やほかの人たちの人権の大切さを話題にしていますか。	２．９
		6	あいさつや会釈，言葉遣いについて，意識して指導されていますか。	３．１
		7	ボランティアや他者のためになる活動を通して，自他の行いやよさに気付かせようとしていますか。	２．５
		8	いじめをしない，いじめを許さないことを話題にされていますか。	３．３
		9	家庭内での読書習慣を大切にしようとしていますか。	２．１

＜上記項目の分析＞

学校・生徒・家庭ともに，１～４の「志や誇り」つまり社会における自己の役割や責任感をもち，積極的な他者との関わりの中で自己肯定感をもたせる項目において，やや低い結果が出ています。生徒の主体性と自信をもたせる体験の一助として，昨年度から企画しているスクールドリームプランがあります。９の項目は保護者の方の評価が低めですが，保護者の皆さんが影響を受けられた書籍や，子供の頃に感銘を受けられた書籍など，生徒に勧めていただければと思います。

子どもたちのために よりよい教育を　＜保護者アンケートの結果＞

評価基準　＝　４：そのとおり　　３：だいたいそのとおり　　２：やや努力不足　　１：全くそうでない

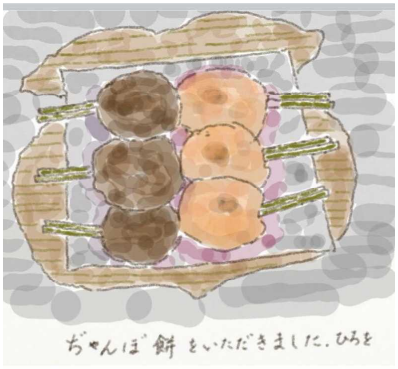
項目	役割	番号	質　問　内　容	平均評価
たくましく	家庭は	10	安全や健康・防火防災に対する危機意識を話題にされていますか。	２．６
		11	自宅外でのマスク着用や消毒など，感染症の感染防止に日ごろから気を付けさせていますか。	３．１
		12	就寝時間や食事など，規則正しい生活をこころがけさせていますか。	２．８
		13	運動や体力づくりを意識させようとされていますか。	２．７
		14	性教育や薬物乱用防止教育，メディアの活用について正しい知識を身に付けさせようとされていますか。	２．６
		15	ストレスや困難に適切に対処する方法について話題にされていますか。	２．７
未来を切り拓く力	家庭は	16	分からなかったことや疑問に思ったことは，そのままにせず先生や友達に尋ねたりさせながら解決するようにさせていますか。	２．９
		17	「予習・授業・復習」の大切さを伝え，テスト後は，できなかったことが分かるまで解くことの大切さを伝えておられますか。	２．７
		18	子供とよく語り，時として傾聴しながら，子供と話す機会をもつようにされていますか。	３．１
		19	子供が関心をもったことについて，自分の得意な方法で調べたり学んだりするように促されていますか。	２．９

＜上記項目の分析＞

14のメディア活用については，生徒の自己評価と，職員・保護者の評価とに差が出ている項目です。御家庭で利用される端末のフィルター設定や，家庭内での使用におけるルール作りなど，引き続きの御指導をよろしくお願いいたします。15のストレスマネジメントですが，昨年度は生徒はかなり低い数値でした。しかし今年は上がっており，それぞれの生徒がストレス解消法を会得してきているものと考えます。

なお，生徒・職員の評価が入ったものはＨＰにアップしております。　コチラ　→　御参照ください。

ほめるは前進の促しであり，叱るは挽回の励ましである



子供を「ほめたらいいのか」,「叱ったらいいのか」は，迷うところです。子供が小さい時は，とにかくできたことをほめる。そうやってできることを増やして育ててこられた方も多いと思います。しかし，子供が成長してきたり相手が大人だったりするとそういうわけにはいきません。

ほめすぎても，相手は調子に乗るし，素直に受け止めてもらえないこともあります。叱っても，そのことを肯定的に受け取れる相手ばかりではありません。私の場合，教師になりたての頃は，生徒のよくないところを矯正したいという気持ちが強くて叱ってばかりであったような気がします。そのたびに，子供たちから反抗され，うまく指導ができないこともありました。ほめ方も上手でなかったので，青年教師の手法は生徒から見透かされていたような気がします。

やはり，ほめることも叱ることも必要です。どちらかに偏りすぎてもいけないとは思いますが，ほめるに当たっても叱るに当たっても，「ほめるは前進の促しであり，叱るは挽回の励まし」という意識をもって関わる。つまり，「促し励ます」という前向きな気持ちをもたせるかかわりが大切なようです。

（参考：「アドラーの教え」　岩井　俊憲著　大和書房。「きばっど４」　宮元一賴　著）

校長　　塚元　宏雄